

研究が好きだからこそ自分はある

川内 敬子

甲南大学フロンティアサイエンス学部・准教授

<仕事の内容とやりがい>

がんの発生や進行の分子機構の解明ならびに新規がん治療法の開発の研究を行っています。これまでの人生の中で、たくさんの壁にぶつかりました。この壁を乗り越えるために必須だったものは、“研究が好き”という気持ちでした。がんは、2人に1人罹患する身近な病気となっていますが、怖い病気として認識されています。なぜでしょうか？この“なぜ”を考えながら、がん細胞の“かたち”を観ることで異常見つけ出し、そこに楔を打ち込む方法を検証することが、何よりも楽しいと思い、日々過ごしています。

<進路決定のきっかけ>

生命科学を学びたいと思ったのは、小学・中学時代に観た“小児がん”のテレビドラマの影響です。患者や家族の苦しめている“がん”について実態を知ること、がん治療法を開発したいという強い思いを持ち、大学に進学しました。進学後、ストレートに研究者の道を選んだわけではなく、挫折もありました。企業で働いている間にたくさんの素晴らしい研究者との出会いがあり、博士課程の進学を決めました。博士号の取得が自信につながり、研究者の道を選びました。

仕事を第一優先にして生きてきました。一方で、このような自分が母親でよいのかと思い悩んだことは数えきれません。相談した仲間が、「子供は育つものである。母親が自分の子供を可哀想と思うことが、子供にとって一番不幸なことである。」と、教えてくれました。この言葉を自分に納得させて、私の研究人生でよいと思うことは、長期留学も含めて可能な限り挑戦してきました。今では子供たちも研究者を目指して頑張っています。

面白いことを見つけることが、進路選択においてとても重要なことです。まだ、面白いことに出会っていない人は、様々なことにチャレンジしてほしいと思います。そして、“人生をどう生きるのか”を自らの意志で決めるために、心の底にある気持ちを解放させてください。これには、先人の方々と出会うことが大切であると考えます。いろいろな方と接する機会をたくさん作ってください。この機会を提供する最良の場が、SJWSかもしれません。

<仕事と家庭のバランス>

<進路選択に対してのメッセージ>

<プロフィール>



兵庫県立姫路工業大学院博士過程修了(博士・理学)後、神戸大学、日本医科大学、シンガポール国立大学を経て現在に至る。